

第56回生命科学夏の学校

開催報告書

生化学若い研究者の会

1. 生命科学夏の学校の概要
2. プログラム
3. シンポジウム・ワークショップ
4. ポスターセッション
5. 参加者交流企画
6. 運営委員名簿
7. 収支報告
8. 後援・助成・協賛

1. 第56回生命科学夏の学校の概要

◆ 生命科学夏の学校の目的・意義

「生命科学夏の学校」は、①最先端の研究動向の把握に加え、②活動地域や大学・分野の垣根を越えた交流を目的に、50年以上絶えることなく開催している日本最大規模の滞在型の研究会です。参加者は、講演やグループワーク、研究交流会を通して異分野に触れることで視野を拡げ、そして互いの研究について語り合うことで若手研究者同士のネットワークを自然と形成していきます。こうして優れた若手研究者同士の繋がりを深めることで、これからの日本の生命科学研究の活性化に寄与することを目指しています。

◆ 開催方針

「第56回 生命科学夏の学校」では、「あなたの夢は何ですか?」をキャッチフレーズに、「夢を語る夏学」「未来を語る夏学」をテーマに掲げました。1) 普段の研究生生活から離れ、同じ志を持った仲間が全国から集うこの夏の学校で、改めて自身の夢について考えてもらいたい。2) 最先端のトピックの講演や、参加者同士のディスカッションを通じて、生命科学の未来について共に考えるきっかけを提供したい。という2つの思いから、今回のテーマを設定しました。



第56回生命科学夏の学校ポスター

◆ 開催概要

【主催】生化学若い研究者の会、第56回生命科学夏の学校運営委員会

【後援】公益社団法人日本生化学会、独立行政法人 科学技術振興機構

【会期】平成28年8月26日(金) - 8月28日(日)

【会場】小原温泉 旅館かつらや

(〒989-0233 宮城県白石市小原字湯元23)

【参加者数】123名(うち一般参加者109名、講演者14名)

※内訳は次ページ図1『参加者の内訳』を参照

◆ 本年度夏の学校の特色

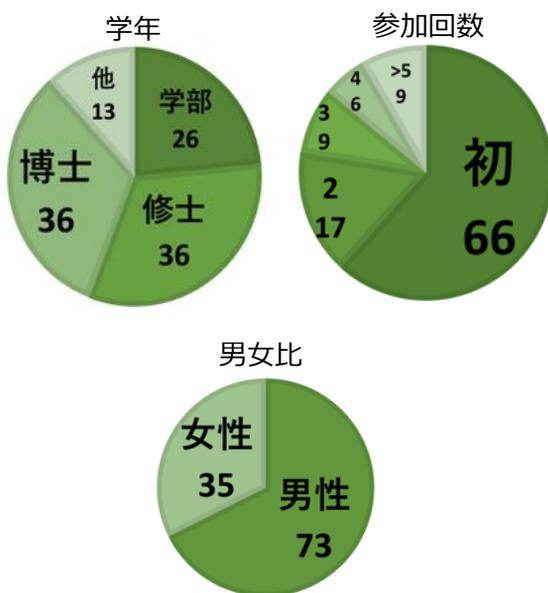
生命科学夏の学校は、例年全国より100名以上の若手研究者が参加する国内でも有数の大規模な若手研究会であり、本年も109名の一般参加者と、14名の講演者の計123名が一堂に会しました。参加者の立場は学部1年生からポスドク・助教までと幅広く、専門分野も細胞生物学、神経科学、免疫学、生物物理学、バイオインフォマティクスなど多岐に亘りました（図1 参加者の内訳）。このように多様なバックグラウンドを持った若手研究者が専門分野を超えて集まることは本研究会の特色であります。

本年度の夏の学校では、講師を招いたメイン企画としてシンポジウムとワークショップを行いました。シンポジウムでは、「多様性」をテーマとし、講師と参加者の議論や、参加者同士のグループワークを通じて、「多様化していく社会の中で、今後われわれ若手研究者はいかに活躍すべきか」について語り合いました。ワークショップでは、生命科学の未来に思いを馳せられるような最先端のトピックを多く取り揃えたほか、コンピュータ実技研修や研究内容のビジュアル表現についての実習型のワークショップも行い、参加者の今後の研究生活に生かせる知識と技能を身に付けていただきました。

その他、研究交流会や自由集会、ポスターセッションでは、分野の垣根を越えた交流の機会を提供し、参加者に各自の「夢」を語るとともに、夏の学校終了後も続く若手研究者同士のつながりを得ていただきました。

本年は約半世紀ぶりの東北開催ということもあり、昨年までと比べ、東北・北海道からの参加者が急増しました（全体の約3分の1以上）。東北地方からの参加者からは、「以前から夏の学校の存在は知っていたが、地理的な障壁から参加が難しかった。今回、東北での開催ということで参加を決めた。」といった声も聞かれ、地方開催の意義を見直す機会となりました。

A. 参加者の比率



B. 参加者の分布

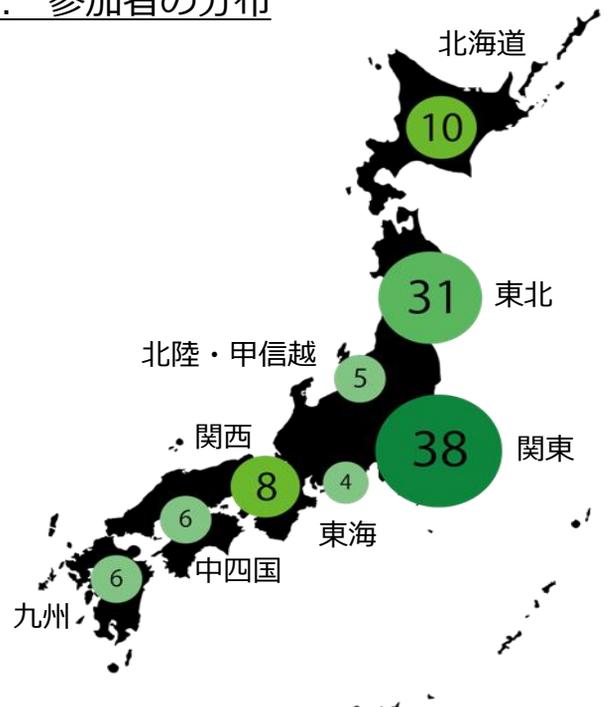


図1 参加者の内訳

◆ 講演者 (50音順・敬称略)

大隅 典子	(東北大学)	中戸 隆一郎	(東京大学)
落合 陽一	(筑波大学)	藤山 秋佐夫	(国立遺伝学研究所)
伊勢田 哲治	(京都大学)	古谷 祐詞	(分子科学研究所)
河本 宏	(京都大学)	前多 隼人	(弘前大学)
佐藤 健大	(Spiber 株式会社)	松崎 政紀	(東京大学)
佐野 亮輔	(奈良先端科学技術大学院大学)	三浦 恭子	(北海道大学)
清水 厚志	(岩手医科大学)	山田 哲也	(東北大学)

2. プログラム

8月26日（金）

13:00-14:00 開校式

14:00-15:30 ワークショップ1

WS1 『メディアと物質』

15:30-16:30 チェックイン

16:30-18:30 ワークショップ2

WS2-A 『光が照らす生命科学の未来』

WS2-B 『大規模解析が切り拓く生物学』

18:30-19:00 自由時間

19:00-20:00 夕食

20:00-21:30 自由時間

21:30-23:30 研究交流会

8月27日（土）

08:00-09:00 朝食

09:00-09:30 自由時間

09:30-12:00 シンポジウム

第一部 多様性は望ましいのか

第二部 多様性社会の中で輝くには

12:00-13:00 昼食

13:00-14:30 ワークショップ3

WS3 『エネルギー代謝調節メカニズムの解明を肥満・糖尿病治療に役立てる』

14:30-15:00 自由時間

15:00-16:30 ワークショップ4-A,B

WS4-A 『生化学で切り拓くタンパク質新素材の未来』

WS4-B 『～アフリカの奇妙な齧歯類ハダカデバネズミ～

がん化耐性・老化耐性・社会性の謎に挑む！』

17:00-18:00 自由時間

18:00-19:00 夕食

19:00-19:30 自由時間

19:30-21:00 ポスターセッション

21:00-22:00 自由集会

22:00-24:00 懇親会

8月28日（日）

08:00-09:00 朝食

09:00-09:30 チェックアウト

09:30-11:30 ワークショップ5

WS5-A 『聴衆に伝わりやすいイラストの描き方』

WS5-B 『ウェット研究者が「片手間」で使うR講習

—RとR-studioを、ツールとして「何とか」使いこなす—

11:30-12:00 自由時間

12:00-13:00 昼食

13:00-14:00 閉校式



3. シンポジウム・ワークショップ

◆ シンポジウム

『これからの「多様性」の話をしようー多様性社会を生き延びるための〇〇』

第一部 多様性は望ましいのか

「多様な視点から見ることの意義：社会認識論のすすめ」伊勢田 哲治 先生 (京都大学)

第二部 多様性社会の中で輝くには

「リケジョの活躍と未来の科学」大隅 典子 先生 (東北大学)

「研究者と地域をつなげる多様性～紅の夢と地域の活性化について」前多 隼人 先生 (弘前大学)

本シンポジウムは、昨今その推進が社会的に推奨されている「多様性」の意味することやその重要性を改めて考え、多様性社会をどのように戦略的に生きていくか、講演と討論を交えて理解を深める企画です。

第一部では、「科学における多様性」を哲学的に研究されている伊勢田先生をお呼びして、多様性とは何か、科学者社会において多様性を確保することがどういった重要性を持つのかについて、科学哲学の一分野である社会認識論の知見に基づき議論していただきました。「多様な視点からの批判の仕組みが必要」「学説を無理に一本化しようとしなないことが大事」といったお話は、新鮮なものでした。哲学者の先生をお呼びするのは初の試みであり、私たちと異なる方向から科学者社会を捉える視点に「目から鱗だった」という感想が多く聞かれました。

第二部では、多様性社会の実情ということで、大隅先生に研究者の男女共同参画について、前多先生には地方大学での研究実態について講演していただきました。その後のグループワークでは、理系学部女子学生を増やすための施策や地方と都市の研究環境の違いなど5つの課題について、参加者に班に分かれて議論してもらい、その結果を発表し先生方からの講評をいただきました。

講演、グループワークを通じて、参加者が多様性社会というものをより現実的に捉え、その中でどう輝いていくのか議論が深まりました。



図2 シンポジウムの様子

オーガナイザー：水野 雄太(東京大学)、西村 亮祐(東北大学)、志甫谷 涉(名古屋大学)、
本間 洋平(社会人)、田中 祐美(広島大学)

◆ ワークショップ

WS1

『メディアと物質』

落合 陽一 先生（筑波大学）

現代メディアアートの第一人者としてご活躍されている、筑波大学の落合陽一先生にご講演いただきました。

落合先生は20代で研究室を主宰され、さらに実業家としての活動やメディア出演など、多方面で活躍されています。本WSではこのような多彩なご経験をもつ先生ならではの視点で、メディアアートはもちろん、コンピュータ技術研究の昔と今と将来について、時折生命科学との関連も交えながらお話をしました。

生化若手の会としては従来にない異色なWSでしたが、講演後は活発な質疑応答が行われ、また「生命科学を異なる視点から捉えることができ、視野が広がった」といった声が多数寄せられました。



オーガナイザー：川出 野絵（社会人）、橋本 崇志（京都大学）、宮本 道人（東京大学）

WS2-A

『光が照らす生命科学の未来』

古谷 祐詞 先生（分子科学研究所/総合研究大学院大学）

松崎 政紀 先生（東京大学）

本WSでは、「光遺伝学の原理およびその応用」をテーマに、古谷祐詞先生と松崎政紀先生にご講演いただきました。前半は、古谷先生からオプトジェネティクスで用いられるチャンネルロドプシンのイオン輸送機構を、後半は松崎先生から、神経科学の分野を中心に光遺伝学が可能とする研究について紹介していただきました。参加者からは、「オプトジェネティクスについて、多方面から勉強できてよかった」などの声が寄せられ、光遺伝学の基礎と実践の両面を学ぶ貴重な機会となりました。

オーガナイザー：落合 佳樹（創価大学）、水口 智仁（慶應義塾大学）

WS2-B

『大規模解析が切り拓く生物学』

中戸 隆一郎 先生（東京大学）

藤山 秋佐夫 先生（情報・システム研究機構）

清水 厚志 先生（岩手医科大学）

本WSでは、中戸隆一郎先生（東京大学）、藤山秋佐夫先生（情報・システム研究機構）、清水厚志先生（岩手医科大学）にお越しいただき、ゲノムコホート研究、生体分子の構造解析など、さまざまな生物学分野で発展してきた内容をご講演いただきました。後半には、大規模解析による生物学の今後の発展について、フロアの参加者を交えて議論いただきました。さまざまな分野から生物学を見据えるという、またとない機会に参加者を魅了しました。

オーガナイザー：戌亥 海（九州大学）、瀧端 篤（京都府立大学）

『エネルギー代謝調節メカニズムの解明を肥満・糖尿病治療に役立てる』

山田 哲也 先生（東北大学）

臓器間ネットワークの第一人者である東北大学の山田哲也先生をお招きし、脂肪細胞で産生されるレプチンと交感神経、また肝臓PPAR γ とグルコキナーゼおよび迷走神経を介した摂食調節の分子メカニズムについてご講演頂きました。さらに肝臓HIF1と胆石、膵臓の嗅覚受容体とインスリン分泌など最新の研究についてもご紹介頂きました。ひとつひとつの病態を明らかにするために苦労されたこと、ヒントを得て解決に至った経緯についてもお話し頂き、参加者からは「理解しやすかった」「大変勉強になった」という言葉を多数頂きました。山田先生はご講演日の夜のポスター発表、自由集会、懇親会にも参加していただき、多くの学生とのディスカッションを通して夏の学校を盛り上げてくださいました。

オーガナイザー：木藤 有紀（徳島大学）、中川 香澄（社会人）

WS4-A

『生化学で切り拓くタンパク質新素材の未来』

佐藤 健大 先生（Spiber株式会社）

クモの糸の産業応用分野において、世界の最先端を行くSpiber株式会社より、研究開発部門チームマネージャーの佐藤健大先生をお招きしました。クモの糸に関する知見の現状や大量精製に必要な技術、さらには研究者としてのキャリアパスなどをお話しいただいたことで、我々若手研究者が今後をどのように歩んで行くべきかを考える、貴重な機会となりました。また質疑応答での議論も非常に活発であり、多くの参加者にとって充実したWSになったと考えています。

オーガナイザー：濱野 洋茂（東京工業大学）、原田 久美（東京工業大学）

WS4-B

『～アフリカの奇妙な齧歯類ハダカデバネズミ～ がん化耐性・老化耐性・社会性の謎に挑む！』

三浦 恭子 先生（北海道大学）

本WSでは、北海道大学の三浦恭子先生をお招きし、がん化耐性、老化耐性、真社会性という非常に興味深い特徴をもった生物であるハダカデバネズミの研究についてご講演いただきました。ハダカデバネズミから樹立したPS細胞を使った最新の研究成果の紹介をしていただくとともに、モデル生物として起用するまでの経緯や実験系立ち上げの苦労についてもお話しいただきました。参加者からは「誰もやっていない未知のことを探索していく面白さや大変さをうかがうことができ、今後の研究生活のモチベーションになった」「母数が多い中から競争して勝ち残ろうと努力することも、アマゾン開拓もどちらも大切とうかがって感銘を受けました」といった声が寄せられました。

オーガナイザー：山田 萌（大阪大学）

WS5-A

『聴衆に伝わりやすいイラストの描き方』

河本 宏 先生（京都大学）

本WSでは河本先生に、分かりやすいイラストの描き方をご講演いただき、参加者の方にも実際にイラストを作成していただきました。

学会発表や一般の方向けの研究発表など、研究生活において「自分の研究を分かりやすく伝える」というのはもはや研究者の義務となりつつあり、その中でイラストというのは大変重要なツールとなっています。講義では「分かりやすく」伝えるという事に重点を置き、題材や場面に応じた情報の取捨選択の度合い、擬人化を用いるべきところとそうでないところなどを解説していただき、参加者の皆さんが今後イラストを描く際に気をつけるポイントなどを多数示していただきました。また、河本先生のこれまでの研究以外の活動についてもご紹介いただき、参加者の皆さんを楽しませていただきました。

教授でありながらも課外活動もされている姿は、これからアカデミアの道を進もうとしている方々に明るい未来を示してくださった事と思います。

オーガナイザー：池田 明加（社会人）、潟端 篤（京都府立大学）

WS5-B

『ウェット研究者が「片手間」で使うR講習

—RとR-studioを、ツールとして「何とか」使いこなす—』

佐野 亮輔 先生（奈良先端科学技術大学院大学）

佐野亮輔先生（奈良先端科学技術大学院大学）にお越しいただき、統計解析ソフトRを使って論文に使えるグラフを作る、参加型の実習をしていただきました。参加者からは、「限られた時間で習得するのは難しかった」といった声もあった一方で、「統計解析だけでなく、グラフの作成にも大変便利だと感じた」「研究室に戻ってからもぜひ勉強したい」という感想も聞かれました。実際に自らのPCでグラフを作ることで、Rを扱う「きっかけ」を掴むことができました。

オーガナイザー：潟端 篤（京都府立大学）、堀内 雄太（総合研究大学院大学）



4. ポスターセッション

ポスターセッションでは、参加者の日ごろの研究やそれ以外の活動についてポスター形式で発表していただきました。異分野の参加者が集まる夏の学校でのポスターセッションは、学会等での発表とは勝手が異なるため、自分の研究を理解してもらうための話し方の工夫に頭を悩ませる姿も見られました。

一方で、普段とは異なる視点からのアドバイスを得て、研究分野同士の繋がりに気付く機会となったり、今後の研究のヒントを得たりした参加者も多いようでした。



◆ ポスター賞

参加者の投票によってポスター賞を決定しました。最優秀賞、優秀賞に加え、ポスターデザインが優れていると評価されたポスターにはデザイン賞が授与されました。

受賞者

最優秀賞

筑波大学 ヒューマンバイオロジー学位プログラム 博士課程2年
本多 隆利 様 (No. 18)

「光と熱で神経回路を活性化、生きた昆虫の脳に人工的な記憶の形成に成功
～光遺伝子・熱遺伝学を用いた連合学区集パラダイムの開発～」

優秀賞

東北大学 生命科学研究科 博士前期課程2年
西村 亮祐 様 (No. 5)

「メカノストレス応答に関与するRhoGEFの上皮管腔組織形成における機能解析」

デザイン賞

東北大学 生命科学研究科 博士前期課程2年
西村 亮祐 様 (No. 5)

「メカノストレス応答に関与するRhoGEFの上皮管腔組織形成における機能解析」

◆ ポスター発表者一覧

番号	発表者	タイトル
○細胞の構造と機能		
1	横山 吟司	細胞分化における核内アクチンの機能解析
2	由井 杏奈	Li-cadherinのホモダイマー形成に関する分析
3	宮本 卓馬	プロスタノイド受容体IPによるマスト細胞炎症応答の抑制機構
4	有澤 琴子	脂肪滴一重膜におけるリン脂質脂肪酸の意義の解明
○細胞応答		
5	西村 亮祐	メカノストレス応答に関与するRhoGEFの上皮管腔組織形成における機能解析
6	石橋 公二郎	代謝経路解析による細胞競合の分子メカニズムの解明
7	稲村 明洋	ゲムシタピンによるINS-1細胞へのオートファジー誘導
8	温田 晃弘	大腸がん細胞のメカノトランスダクション
9	大飼 隆太	小胞体ストレス誘導性細胞死における小胞体膜に着目したカスパーゼ活性化分子機構の検討
○疾患生物学		
10	田中 祐美	プリオン病診断に向けたバイオマーカー探索と、検出系の確立
11	佐々木 彩名	細胞競合における環境因子の影響
12	小橋 功紀	皮膚腫瘍誘導機構におけるLGR4の機能解析
13	今井 創	プレセニン1の変異によるγセクターゼ活性の変化と毒性Aβの減少
14	木村 有希	2型糖尿病病態とモノカルボン酸輸送担体MCT遺伝子多型と関連
○神経科学		
15	權 秀珍	『Memory manipulation with optogenetic glia』
16	本多 隆利	光と熱で神経回路を活性化、生きた昆虫の脳に人工的な記憶の形成に成功 ～光遺伝子・熱遺伝学を用いた連合学区集パラダイムの開発～
17	吉成 祐人	雌の交尾後の変化を引き起こす神経ペプチドの発掘 ～ショウジョウバエ生殖幹細胞を用いた解析～
18	井村 英輔	「大人」になる仕組み・変態を制御する神経・内分泌系盤の研究
○遺伝子とゲノム		
19	岡崎 賢吾	lncRNAによるストレス種特異的な遺伝子発現抑制
20	湯端 篤	真核生物のゲノム解読
21	小石 加奈恵	ストックの八重咲変異原因遺伝子の研究
22	田中 祐司	ヒストン脱メチル化酵素KDM2AによるリボソームRNA転写調節の解析
○植物、食品科学		
23	本間 洋平	植物：体全体がPS細胞の塊？如何にラクに遺伝子組換え個体を作るか
24	猪俣 菜花	CRISPR/Cas systemを用いたモチコムギの作製
25	新井 遥香	遺伝子制御ネットワークに着目した陸上植物進化の研究
26	樋口 雄大	植物細胞壁成分・リグニン中に最も多く存在するβ-アリアルエーテルのバクテリアによる分解
27	藤田 雅也	バクテリア細胞外膜におけるリグニン由来芳香族化合物輸送メカニズムの解明
○発生・再生		
28	永井 正義	神経細胞の発生及び分化における染色体整列因子CAMPの機能解析
29	辰巳 大気	ES細胞における転写因子Maxの生殖細胞関連遺伝子制御機構
30	大窪 喜丸	着床に関与するプロスタグランジン受容体の解析
31	関中 保	体細胞から始原生殖細胞を直接誘導する試み
○タンパク質		
32	小野田 淳人	β-Sheetリッチタンパク質の蓄積した脳血管周辺における血管周辺細胞の組織学的イメージング
33	今井 大達	リボソームの触手様タンパク質による翻訳制御機構の研究
34	志甫谷 渉	臨床薬ボセンタンの結合したエンドセリン受容体B型の結晶構造
35	西谷 雄大	細胞内鉄制御因子IRPsの機能制御機構
36	河出 来時	ウサギ抗体のリン酸基認識機構の構造と熱力学的手法による解明
37	藤本 拓志	隣特異的に発現するPDIファミリータンパク質(PDIp)の生理的な機能の解明
38	林 将也	放線菌由来 L-メチオニン脱炭酸酵素の性質検討とその応用
○その他		
39	徳光 貴洋	ヘアカラー開発
40	水野 雄太	分子科学から生命科学へ～とある分子科学者の端くれの夢～
41	宮本 道人	from うじ虫 to アニメ ～学問・芸術・ビジネスをつないで考える～
42	高橋 尚也	科学技術リテラシー・科学教育について
○生化若手の会		
43	夏学スタッフ	自由集会テーマ一覧
44	キューベツ委員会	キューベツ委員会活動紹介ポスター
45-52	生化若手支部	支部紹介ポスター
○企業ポスター		
53-61	協賛企業様	協賛企業からのポスター

5. 参加者交流企画

◆ 研究交流会

『あなたの研究をみんなと語ろう！』

「生命科学夏の学校」には、多様な研究分野の若手研究者が集まります。異分野の研究者同士の議論によって、これまでになかった有用な知識や新たな発想との出会いがあるでしょう。学年・身分や研究の経験年数を問わず、参加者それぞれが互いの研究について学び合える“チャンス”を提供することを目的として研究交流会を開催しました。

研究交流会ではより多くの参加者と議論を交わしていただくために、下記のように3回の異なるグループでの交流を行ないました。

- 1) 学年・身分別のグループ
- 2) 翌日行われるグループワークのグループ
- 3) 学年・研究分野をランダムに組み合わせたグループ

まずは同年代の参加者との顔合わせから始まり、自身の研究、興味ある研究分野における専門的な議論まで、多くのディスカッションと交流が生まれました。

◆ 自由集会

『参加者の参加者による参加者のための企画』

事前に参加者から興味あることや話したいことを「Myテーマ」として募集し、それを元に小グループに分かれて討論・交流を行ないました。

キャリアプランに関わるテーマから、日々の研究生活に対する悩みを共有するようなテーマまで様々なテーマの応募がありました。同じような境遇・思いを抱く仲間が集まる場で参加者同士が熱く語り合い、悩みを相談し合う姿が見られ、親睦を深める機会となったようでした。

○ テーマ一覧

1. 生命科学をゲームに！
2. 「その研究、なんの役に立つんですか？」に どう答えるべきか
3. 研究者がYouTuber を超えるには
4. 蚊はころしていいのに 犬は殺しちゃダメなの？ ←これ研究者は なんていうの？
5. ノンリサーチ（非研究） ノンバイオ（非生物系） キャリアへの道
6. 大学で一般教養 科目は必要か？
7. 研究者は忙しい？ 生化学研究者の タイムスケジュール
8. めっちゃ閲覧される (研究)紹介ページ 作りませんか！
9. がん細胞の 存在意義を考える
10. ブラック研究室、ホワイト研究室って？
11. 女子学生が男性社会で 生き抜く為には！
12. 研究者だって恋愛がしたい！！！！恋人（配偶者）は研究者が良い？研究者はいやだ？
13. 論文GO —あなたの研究を ゲームにしよう！—

6. 運営委員名簿

センター事務局長

松原 由幸 (名古屋大学 D3)

夏の学校 実行委員長

西村 亮祐 (東北大学 M2)

夏の学校 事務局長

権 秀珍 (東北大学 M2)

ワークショップ係

- 井上 実紀 (九州大学 D2)
- 池田 明加 (社会人)
- 戌亥 海 (九州大学 M2)
- 落合 佳樹 (創価大学 B4)
- 瀧端 篤 (京都府立大学 D1)
- 川出 野絵 (社会人)
- 木藤 有紀 (徳島大学 D1)
- 中川 香澄 (社会人)
- 橋本 崇志 (京都大学 B4)
- 濱野 洋茂 (東京工業大学 D2)
- 堀内 雄太 (総合研究大学院大学 D1)
- 水口 智仁 (慶應義塾大学 B6)
- 宮本 道人 (東京大学 D2)
- 山田 萌 (大阪大学 D2)

シンポジウム係

- 水野 雄太 (東京大学 D2)
- 志甫谷 涉 (東京大学 D3)
- 田中 祐美 (広島大学 M1)
- 西村 亮祐 (東北大学 M2)
- 本間 洋平 (社会人)

企画係

- 星野 友則 (京都大学 D2)
- 阿部 健太 (東北大学 D2)
- 今井 大達 (新潟大学 D1)
- 高橋 尚也 (埼玉大学 M2)
- 吉川 彩香 (東北大学 M2)
- 若山 裕己 (帯広畜産大学 M2)

会場係

- 権 秀珍 (東北大学 M2)
- 菅野 舞 (東北大学 M2)

企業広告係

- 小金丸 利隆 (近畿大学 B5)
- 川出 野絵 (社会人)
- 小石 加奈恵 (静岡大学 M2)
- 神山 健太 (東京大学 M2)
- 内藤 里佳 (東京大学 M1)
- 橋本 崇志 (京都大学 B4)
- 樋口 雄大 (長岡技術科学大学 D1)
- 榎井 瑛司 (東京大学 D3)

Web係

- 瀧端 篤 (京都府立大学 D1)
- 戌亥 海 (九州大学 M2)
- 関戸 遥加 (上智大学 B4)
- 西川 直宏 (名古屋大学 D3)
- 山下 明穂 (社会人)
- 山戸 奈々 (上智大学 B4)

ポスター・要旨集係

- 浅川 賢史 (東京農工大学 D1)
- 小石 加奈恵 (静岡大学 M2)
- 小松 銀河 (東京大学 M2)
- 坂井 舞 (東北大学 M2)
- 水口 智仁 (慶應義塾大学 B6)

会計係

- 中川 香澄 (社会人)
- 内藤 里佳 (東京大学 M1)

Tシャツ係

- 山田 萌 (大阪大学 D2)
- 池田 明加 (社会人)
- 権 秀珍 (東北大学 M2)
- 立石 知佳 (社会人)

○印は係長を示す

7. 収支報告

○ 収入		
項目	内訳	金額(単位：円)
財団助成金	加藤記念バイオサイエンス振興財団	200,000
	テルモ生命科学芸術財団	1,000,000
	サントリー生命科学財団	50,000
企業広告	16社	800,000
	新学術領域研究協賛	50,000
寄付	2社	20,000
参加費	宿泊費・食費	1,625,500
	年会費	250,700
	保険料	34,000
Tシャツ売り上げ		63,000
夏の学校繰越金		0
	収入合計	4,093,200
○ 支出		
会場使用料		220,000
講演用備品レンタル		87,454
講師待遇	宿泊費・食費	90,000
	謝礼	65,000
	交通費	227,000
遠方参加者補助	41名(※1)	816,000
懇親会費		233,970
企画運営費		112,204
企業広告経費		32,954
要旨集製作費		38,880
広告用ポスター発送費		97,412
広告物製作費		28,520
Tシャツ製作費		91,368
印刷・備品・雑費		42,238
参加費	宿泊費・食費	1,625,500
	年会費(センター事務局へ)	250,700
	保険料	34,000
	支出合計	4,093,200

※1 北海道、北陸・甲信越、東海、関西、中四国、九州地方からの参加者に対して交通費を補助

収支合計	金額(単位：円)
収入	4,093,200
支出	4,093,200
収入－支出	0

8. 後援・助成・協賛

ここに、ご支援ならびにご協力いただきました団体・企業の皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

【後援】

公益社団法人 日本生化学会
国立研究開発法人 科学技術振興機構

【助成】

公益財団法人 加藤記念バイオサイエンス振興財団
公益財団法人 テルモ生命科学芸術財団
公益財団法人 サントリー生命科学財団

【特別協賛】

新学術領域研究 「植物細胞壁の情報処理システム」
タイテック株式会社

【協賛】

株式会社 羊土社
イルミナ株式会社
ソーラボジャパン株式会社
マイサイエンス株式会社
フナコシ株式会社
アズサイエンス株式会社
和光純薬工業株式会社
株式会社イナ・オプティカ
株式会社 クリムゾン インタラクティブ ジャパン（英文校正エナゴ事業）
BMG LABTECH ジャパン
十慈フィールド株式会社
タカラバイオ株式会社
テカンジャパン株式会社
サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社
ジェンスクリプトジャパン株式会社

【寄付】

株式会社セイミ
株式会社scio